

カメラ映像を用いた矯正施設内での異常行動とその予兆を検出するAI技術の研究開発

事業概要（フェーズ1）

内容

矯正施設内の監視カメラ映像を解析し、AIを用いて被収容者や職員の異常行動とその予兆を自動的かつ迅速に検出する技術の開発。

背景・経緯

現在、矯正施設では施設ごとに1～2名で映像監視を行っているが、被収容者の自殺・自傷行為や、職員の不適切行為は少なからず発生している。さらに、令和7年6月から拘禁刑の導入が予定されており、映像監視職員への負荷もさらに高まる中で、監視の高度化・効率化が求められている。

狙い、波及効果

矯正施設内での異常行動とその予兆について、AI技術を用いて検出するシステムを構築し、職員一人当たりの業務負担軽減および、被収容者及び職員による異常行動の未然防止及び早期発見を可能とする。

事業化

販売先として国内の矯正施設272施設を想定している。

株式会社Ridge-i

本社所在地	東京都千代田区大手町1-6-1
設立／資本金	2016年7月／21,465千円
従業員数	41名（2024年7月現在）
事業内容	<ul style="list-style-type: none">AI・ディープラーニング技術のコンサルティングおよび開発共同事業、ライセンス、保守モデル、自社開発等によるプロダクトの提供人工衛星データを活用したAI解析ソリューションの提供